

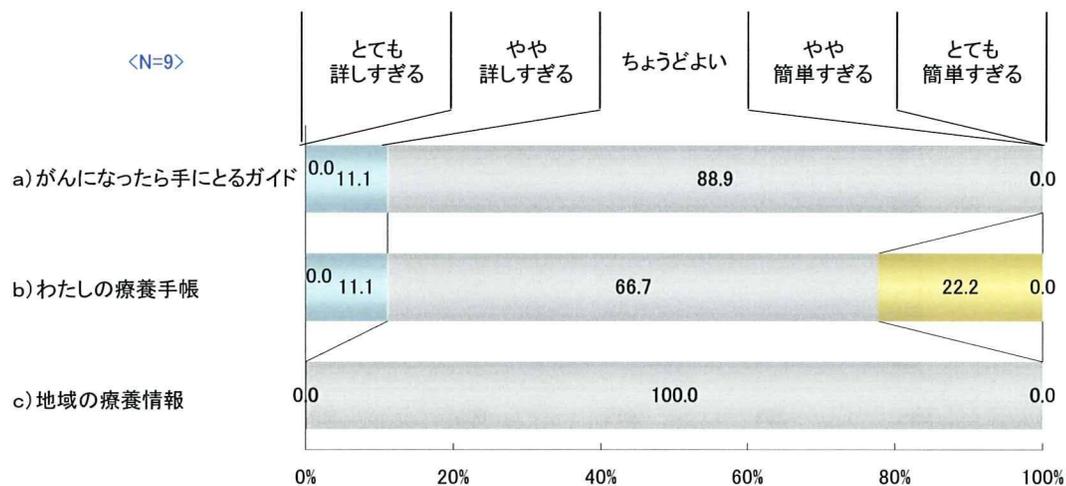
2. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか

書かれている内容に対する評価をみると、

	< 詳しすぎる >	< ちょうどよい >	< 簡単すぎる >
a) 『がんになったら手にとるガイド』	11.1%	88.9%	0.0%
b) 『わたしの療養手帳』	11.1%	66.7%	22.2%
c) 『地域の療養情報』	0.0%	100.0%	0.0%

となっており、いずれも「ちょうどよい」という評価が大半を占めている。

図 49. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか、簡単すぎるか



3. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか

「とても役に立った」、「まあ役に立った」を合わせた“役に立った”割合は

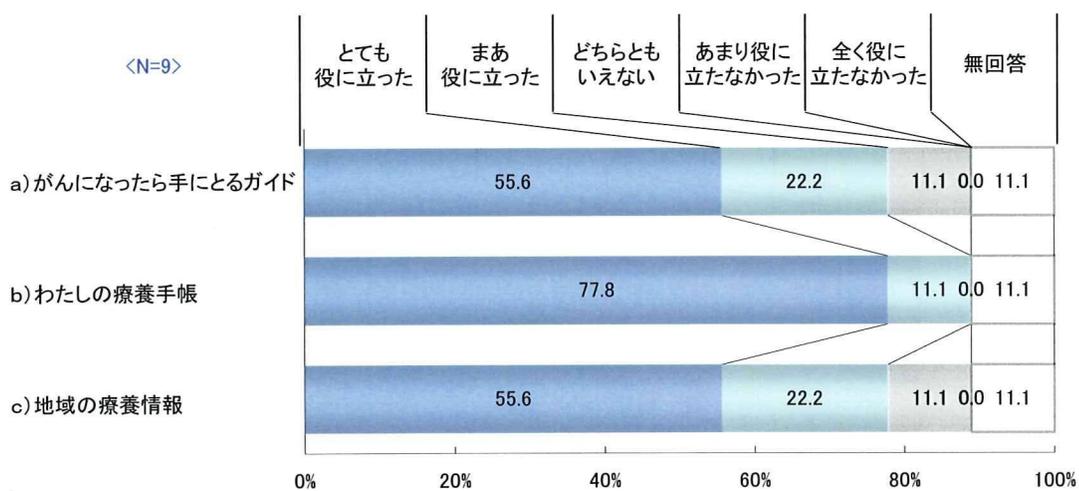
a)『がんになったら手にとるガイド』-----77.8%

b)『わたしの療養手帳』-----88.9%

c)『地域の療養情報』-----77.8%

といずれも高く、“役に立たなかった”という回答はみられない。

図 50. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか



4. 「患者必携」に加えた方がよいと思う情報（自由回答一覧）

a) がんになったら手にとるガイド

- ・試作版 43 ページの図中で、「看護師」「訪問看護師」「担当医」「在宅医」に分けて記載されているが、「薬剤師」は一つしか記載がなく、読んだ人は「病院の薬剤師のことだろう」と思ってしまうのではと危惧している。ぜひ、「保険薬局の薬剤師」と「病院の薬剤師」に分け、「在宅医療チーム」の近くに載せてほしい。
- ・専門用語の解説をもっと充実させた方がよいと思う。
- ・一般的な話題と、がんの各論を分けた方がよいと思う。
- ・本が厚すぎると思う。“限られた時間を自分らしく生きる”という表現は良くない。軽度で治る可能性のある患者が手に取ることは想定されていないのか？“それぞれのがんについて知る”は、患者が読むには情報量が多く、辛いのではないかと思う。各論は小冊子にして、本人がかかったがんの種類だけ渡した方がよいと思う。

b) わたしの療養手帳

- ・「わたしの療養手帳」の個々のダイアリーは差し替えができるとよいと思う。他の疾患を持っている患者のために、高血圧手帳や糖尿病手帳も一緒になっているとよいと思う。
- ・患者の中には、サプリメントも服用している人がいるので、服用薬のところに「サプリメントなど」の記入欄もあればよいと思う。
- ・記入の仕方が詳しく説明されているので、初めての人でもすぐに活用できそうだが、「治療と体調の記録」「週間スケジュール（薬の服用記録）」などのページ数が少なすぎると思う。レフィルの追加ページ+バインダーを作るとよいと思う。
- ・治療記録のところ、お薬手帳と重なる部分がある。「わたしの療養手帳」の週間スケジュールのところに、薬の記載場所を充実させてほしい。
- ・本人が記入するところを、医師や看護師、薬剤師やケアマネジャーなど、いろいろな分野の人が見たり記入すると思うが、分かりにくい。各分野の人たちが見やすいように分類してはどうか。
- ・大きな項目ごとに整理することは大切だと思うが、病気の説明や検査結果、薬の情報は医療者から紙をもらうので、それを項目ごとにファイリングできるものでもよいのではないか。自分で書くのは、自宅での体調のみにした方がよいと思う。説明部分は要らないと思う。
- ・薬の内容を記入する欄は、薬局で貼るシールがあるので、それを活用できるようになっているとシンプルでよいと思う。
- ・自分で書き込むところが多いので、高齢者には少し大変かなと思った。

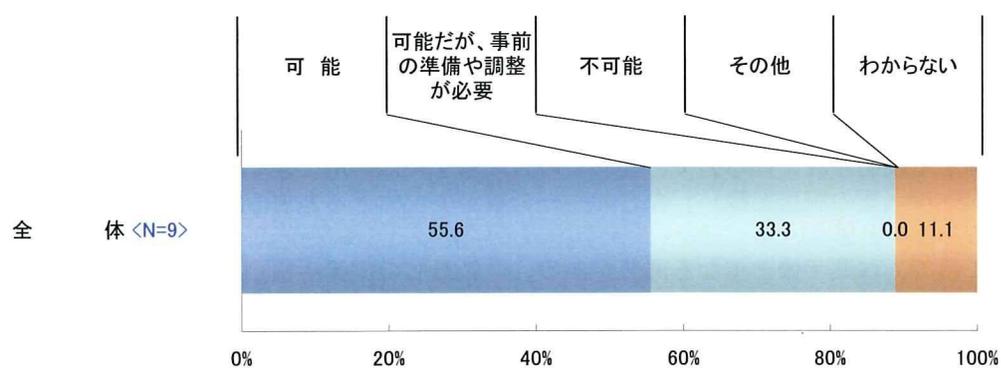
c) 地域の療養情報

- ・療養情報、保険証、お薬手帳、療養手帳などを一つにまとめられる方法（ブックカバー方式）があるとよいと思う。
- ・「医療ネットしずおか」のURLや、医師会、薬剤師会、訪問看護STなどの連携MAPを載せてほしい。
- ・NPOでの患者同士のコミュニティー連絡先などがあると良いかもしれない。
- ・医療費の負担、補助について、もう少し詳しく分かりやすく書かれてあるとよいと思った。
- ・全く見当がつかないので、ホスピスの情報が少しあるとよいと思う。例えば、民間の施設、県外の施設、費用、利用方法、タイミング、自分で決められるのかどうかなど。
- ・このような情報は有効でありがたいので、ぜひ作ってほしい。
- ・タイトルに「2009年版」など、作成された年が入っているとよいと思う。

1. 次年度以降、「患者必携」を配布することは可能か

半数以上が「可能」(55.6%)と回答し、「可能だが、準備や調整が必要」(33.3%)を合わせると約9割(88.9%)を占め、「不可能」と回答した人はいない。

図 51. 次年度以降、「患者必携」を配布することは可能か



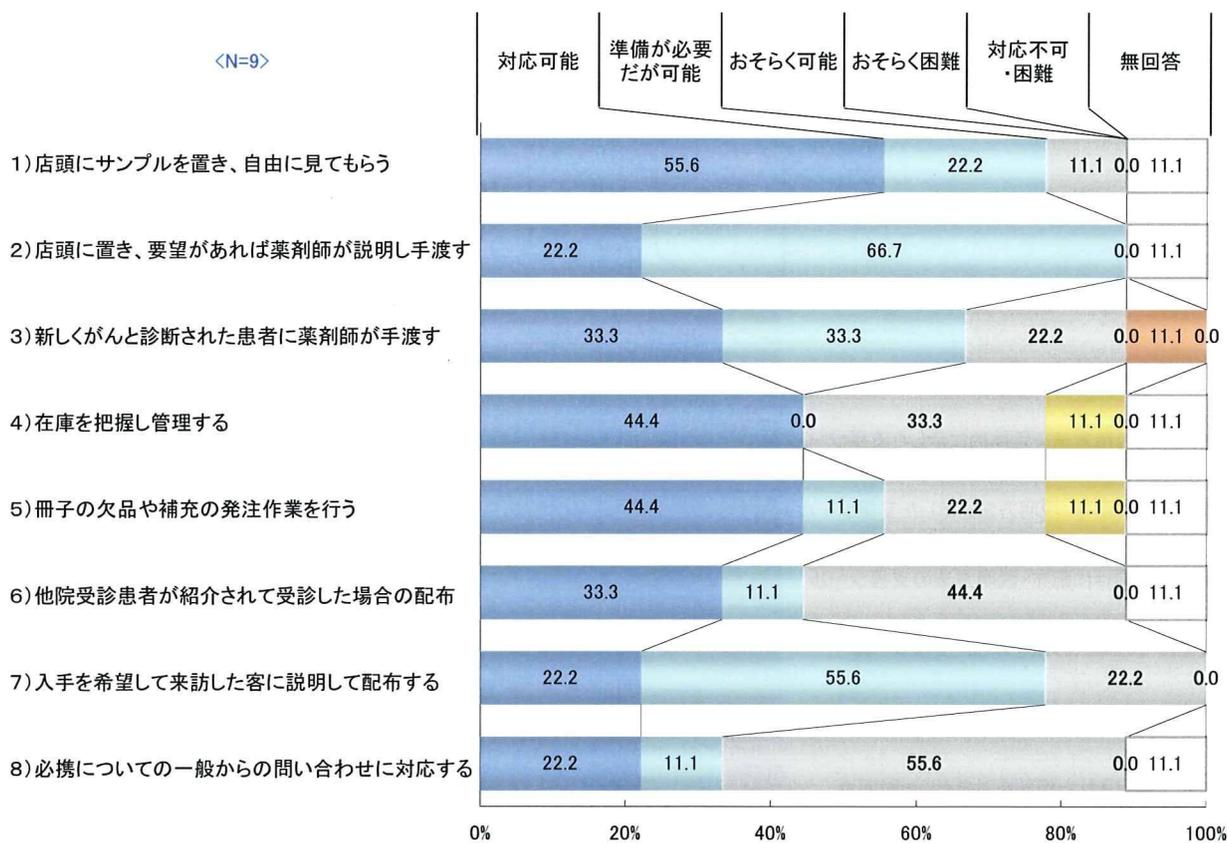
2. 「患者必携」の配布に当たって、各業務の可能性

「可能」、「準備が必要だが、可能」を合わせた割合は

『店頭サンプルを置き、要望があった人に薬剤師が説明し、手渡す』	88.9%
『店頭サンプルを置き、訪れた人に自由に見てもらう』	77.8%
『必携の入手を希望して来訪した客に説明して配布する』	77.8%
『新しくがん診断された患者に薬剤師が手渡す』	66.7%
『冊子の欠品や補充の発注作業を行う』	55.6%
『在庫を把握し管理する』	44.4%
『他院受診患者が紹介されて受診した場合の配布』	44.4%
『必携についての一般の人からの問い合わせに対応する』	33.3%

の順となっている。

図 52. 「患者必携」の配布に当たって、各業務の可能性



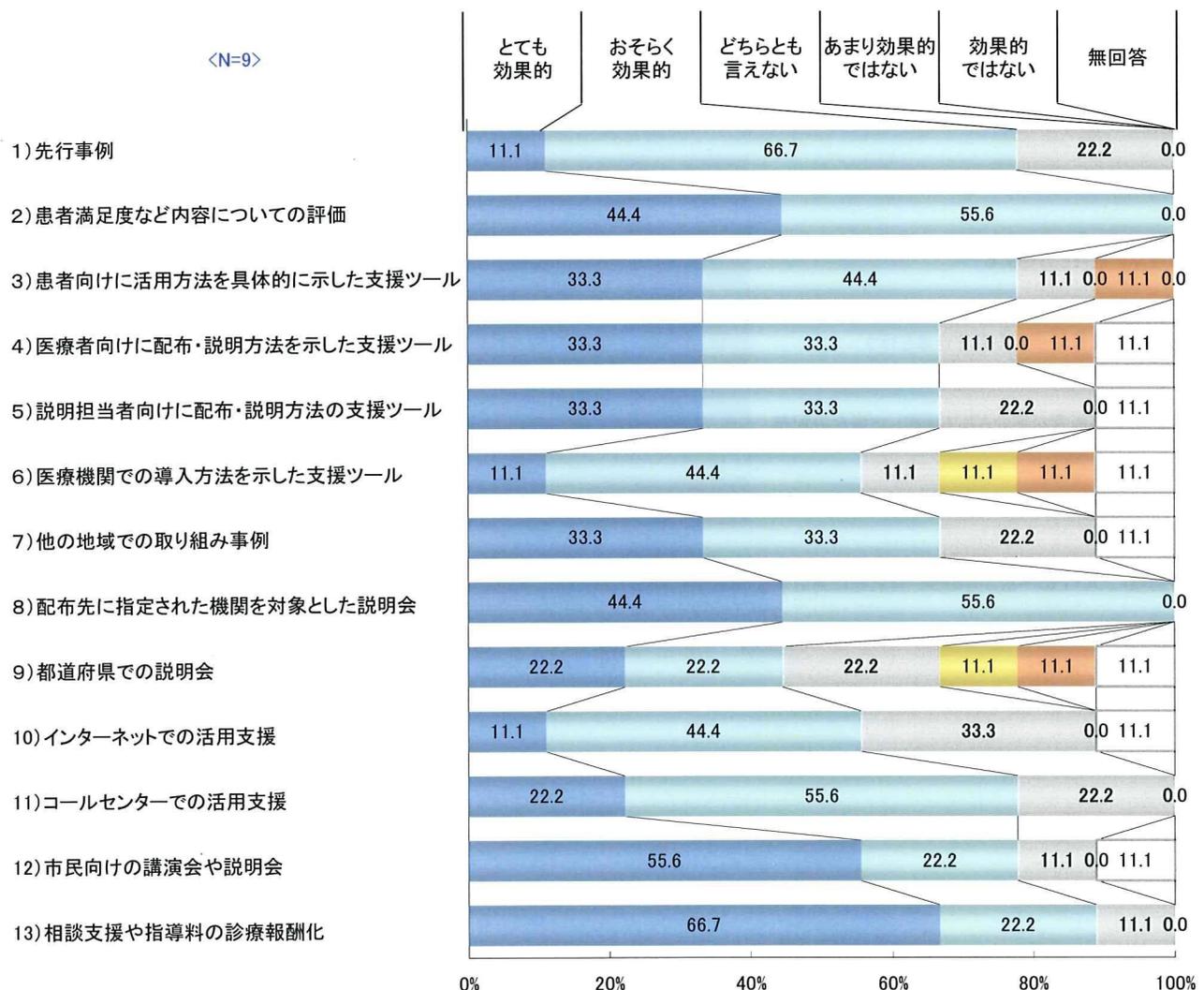
3. 今後、配布、活用を促すために検討している各取り組みに対する効果

「とても効果的」、「おそらく効果的」を合わせた割合は

『患者満足度など、内容についての評価』	-----	100.0%	(「とても効果的」44.4%)
『配布先として指定された機関を対象とした説明会』	-----	100.0%	(44.4%)
『相談支援や指導料の診療報酬化』	-----	88.9%	(66.7%)
『先行事例』	-----	77.8%	(11.1%)
『患者向けに活用方法を具体的に示した支援ツール』	-----	77.8%	(33.3%)
『コールセンターでの活用支援』	-----	77.8%	(22.2%)
『地域の患者会などを含む、市民向けの講演会や説明会』	-----	77.8%	(55.6%)
『医療者向けに配布、説明方法を示した支援ツール』	-----	66.7%	(33.3%)
『説明担当者向けに配布、説明方法を示した支援ツール』	-----	66.7%	(33.3%)
『他の地域での取り組み事例』	-----	66.7%	(33.3%)
『医療機関での導入方法を示した支援ツール』	-----	55.6%	(11.1%)
『インターネットでの活用支援』	-----	55.6%	(11.1%)
『都道府県での説明会』	-----	44.4%	(22.2%)

の順に高くなっている。

図 53. 今後、配布、活用を促すために検討している各取り組みに対する効果



4. 配布の可能性、課題、配布・活用を促す取り組みの提案など、気づいた点（自由回答一覧）

- ・ただ配布するだけであれば、それほど難しくはないと思うが、有効に使用してもらうには、配布時の説明に時間をかける必要がある。さらに、配布後も相談を受けるなど、継続支援も必要である。そのために、説明者も勉強することが大切になってくる。
- ・配布自体は問題ないが、相談受付から説明・配布に至る所までの流れや、予想される質問内容など、事前に勉強する必要がある。現場から患者・家族への情報提供、指導までのフローをある程度ルール化し、それに基づいて実施する方がうまくいくと思う。それをツールとして役立てたら良いものができるのでは…。
- ・「ここで配布しています」「ここで相談を受けてもらえます」などの案内をしてほしい。患者必携の2冊を綴じられるバインダーと一緒に配布すると良いと思う。バインダーはA5サイズで他の情報（お薬手帳や検査データ）も一緒に綴じられるようにする。ポケットの付いたビニール製のレフィルも用意し、保険証や診察券なども入れられるようにする。
- ・薬局では告知の有無や発症部位、進行具合、治療方針などが分からないため、病院から別紙方針があると助かる。居宅・在宅・訪問、服薬指導の指示をしてもらいたい。また、カンファレンスに参加できれば、より理想的である。
- ・浜松OPTIMでも「わたしのカルテ」という取り組みをしている。ファイル形式になっていて、いろいろな資料が入るようになっているが、それと重複する部分もあり、患者の負担になると思う。保険薬局での「お薬手帳」も内容が重複してしまう。いろいろな取り組みとのコラボレーションも考えてみてはどうか。
- ・まずは、医師から患者に渡してもらいたい。薬局やそれ以外のところでは、その補足としてやれば良いのではないかと考えている。
- ・医師の協力が得られるなら、「希望有り」と処方箋備考欄などに記載してくれれば、薬局での説明・配布は可能。店頭に見本を置いて、希望者に渡すこともできる。
- ・「わたしの療養手帳」に、服用薬剤の情報を記入できる部分があると良い。現在、保険薬局で勧めている「お薬手帳」とリンクしてもらえると活用しやすいと思う。

5. 「患者必携」の情報が、がん患者・家族に届き、効果的に活用されるための提案・意見

(自由回答一覧)

- ・配布後に、患者・家族に対するフォローをすること。薬局であれば配布はすぐにできるが、相談・説明には準備が必要。
- ・がんは、患者本人はもとより、その家族に現実（経済的、精神的、肉体的負担）が重くのしかかる。その負担を分散させ、社会的に請け負うことが可能であれば、当事者の負担は軽くなる。そうなるように、様々な情報をうまく生かしてほしい。
- ・県や各市町村の広報やローカルのTV・ラジオで、地域情報として取り上げてもらう。
- ・がん患者がいる家庭では、そのことを近所に内緒にすることも多く、孤独になりがちな印象がある。家族を含めての心のケアや、地域での取り組みなども必要だと思う。地域の薬局がその相談窓口になればとも思っている。
- ・がん患者・家族が見やすく、効果的に活用できるように作成することが大事だが、情報を与える医療従事者などにも記入しやすく、患者情報を把握しやすい書式にしてもらえると良いと思う。
- ・新聞広告、テレビCM、市町村の広報、HP、病院待合室のポスターで患者必携について知ってもらう。医師会・薬剤師会・歯科医師会・ケアマネ協議会・看護協会などで会員に周知をはかる。
- ・告知や治療の状況など、薬局で把握不十分なこともあるが、患者とのコミュニケーションツールとして活用できると思う。
- ・患者が他科を受診していて、併用薬があるかもしれない。併用薬のところなどをバインダー式にして、もっと増やせるようにしたらどうか。バイタルチェック、痛み日記を経時的に見られるページがあると良いと思った。

相談支援センター相談員：

「患者必携」に対する評価

1. 「患者必携」は患者にとって役に立ったと思うか

「とても役に立った」、「まあ役に立った」を合わせた“役に立った”割合は

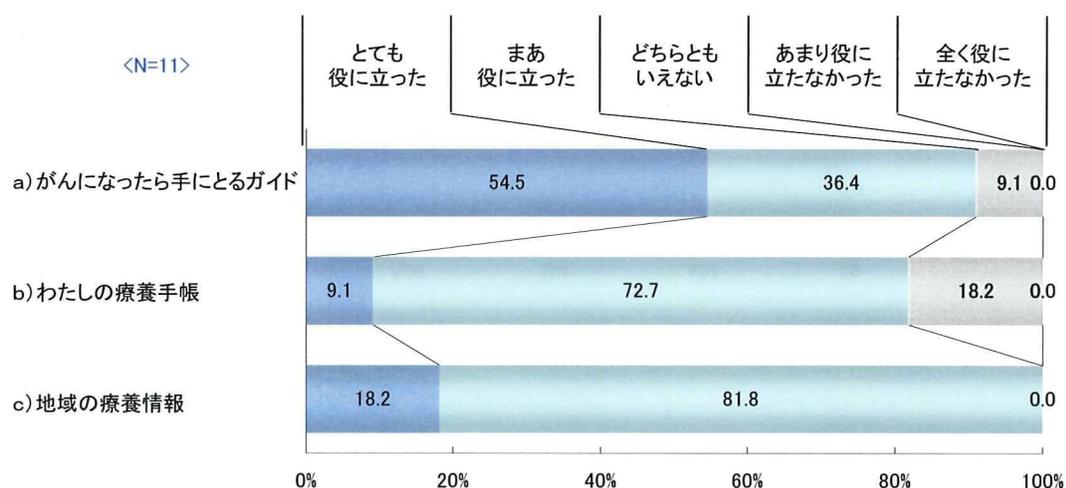
a)『がんになったら手にとるガイド』-----90.9%

b)『わたしの療養手帳』-----81.8%

c)『地域の療養情報』----- 100.0%

となっており、いずれも高率で、“役に立たなかった”は皆無である。

図 54. 「患者必携」は役に立ったと思うか



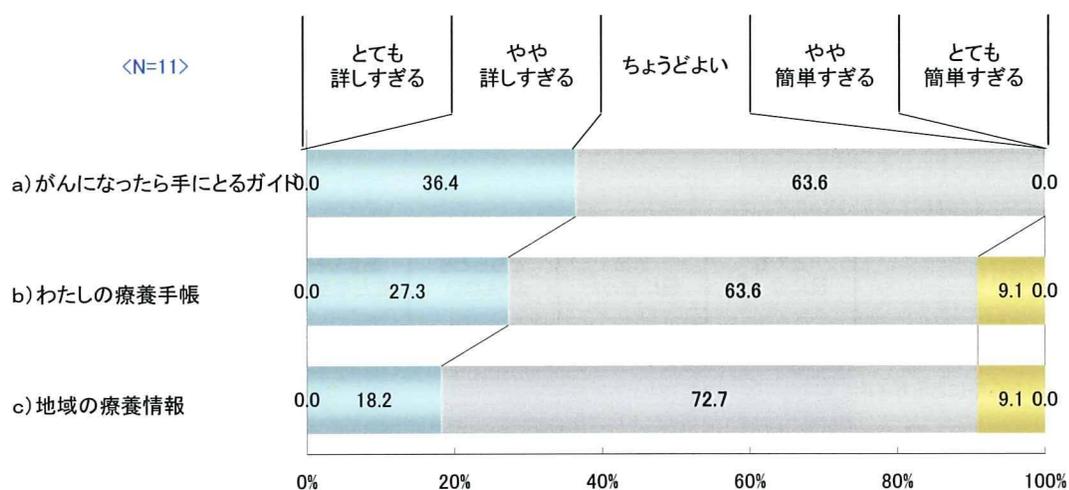
2. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか

書かれている内容に対する評価をみると、

	< 詳しすぎる >	< ちょうどよい >	< 簡単すぎる >
a) 『がんになったら手にとるガイド』 ---	36.4%	63.6%	0.0%
b) 『わたしの療養手帳』 -----	27.3%	63.6%	9.1%
c) 『地域の療養情報』 -----	18.2%	72.7%	9.1%

となっており、いずれも「ちょうどよい」という評価が大半を占めているが、“詳しすぎる”という意見も少なくない。

図 55. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか、簡単すぎるか



3. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか

「とても役に立った」、「まあ役に立った」を合わせた“役に立った”割合は

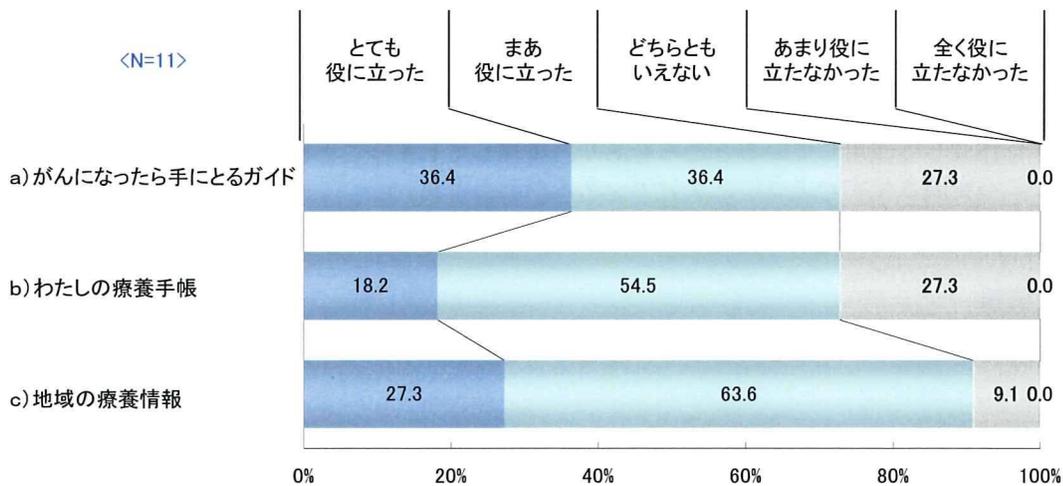
a)『がんになったら手にとるガイド』-----72.7%

b)『わたしの療養手帳』-----72.7%

c)『地域の療養情報』-----90.9%

と、いずれも高く、“役に立たなかった”という回答はみられない。

図 56. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか



4. 「患者必携」に加えた方がよいと思う情報（自由回答一覧）

a) がんになったら手にとるガイド

- ・全体のボリュームが多いように感じる。特に後半の疾患ごとの項目は、自分に関する所しか活用されない可能性が高いので、がん対策情報センターで作成した従来の小冊子などを活用してもよいのではないか。ページ数が減ればコストも下がり、多くの人に配布できるようになると思う。
- ・参考にはなるが、いずれも医療者からの説明は必要だと思った。文章を詳しくすれば、かえって理解しにくいこともあるかと思う。冊子だけで理解するのではなく、情報として知ってもらい、困ったときは医療者に相談できるのであれば、このくらいの内容で良いと思った。
- ・終末期の過ごし方を加えてほしい。あまり触れたくないことだと思うが、どう過ごすことができるか知っておくことは大切だと思う。
- ・「がんになったら...」というタイトルが好ましくないのではと思った。

b) わたしの療養手帳

- ・冊子の内容としては、とてもよくできており、有効だと思う。ただ、体調や薬の記録などは、病院で同様のものを作成して使用しているところもあり、重複してしまうことがあるかもしれないと思った。
- ・必要などころを開きやすいように、インデックスがあると良い。
- ・検査データを記録できると良いと思う。

c) 地域の療養情報

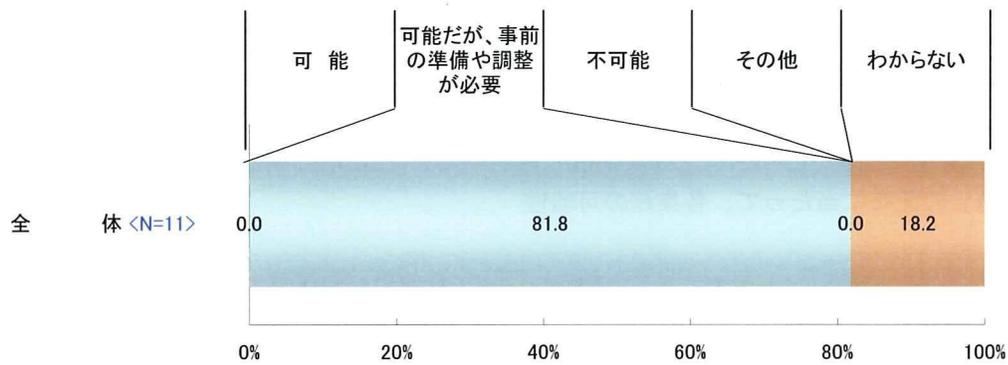
- ・冊子に載せるのは難しいかもしれないが、患者会などの情報も欲しい。

相談支援センター相談員： 「患者必携」の配布について

1. 次年度以降、「患者必携」を配布することは可能か

「可能だが、準備や調整が必要」が8割強(81.8%)を占め、「不可能」と回答した人はいない。

図 57. 次年度以降、「患者必携」を配布することは可能か



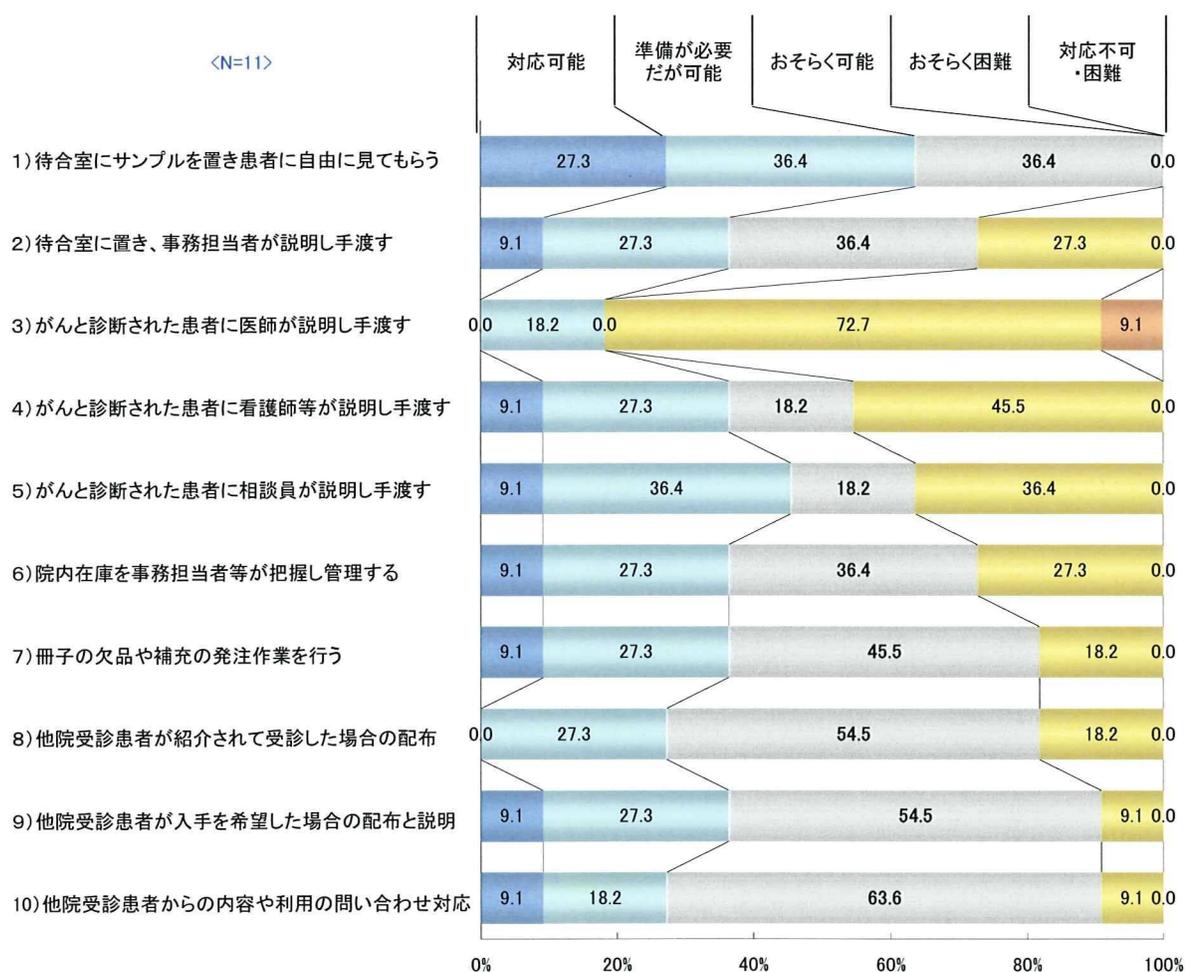
2. 「患者必携」の配布に当たって、各業務の可能性

「可能」、「準備が必要だが、可能」を合わせた割合は

『待合室等にサンプルを置き、患者に自由に見てもらう』	63.6%
『新しくがんと診断された患者に医師の指示により相談支援センター相談員が説明し手渡す』	45.5%
『待合室等にサンプルを置き、要望があった人に事務担当者等が説明し、手渡す』	36.4%
『新しくがんと診断された患者に医師の指示にて看護師、事務担当者等が手渡す』	36.4%
『院内在庫を事務担当者等が把握し管理する』	36.4%
『冊子の欠品や補充の発注作業を行う』	36.4%
『他院受診患者が入手を希望して来訪した場合の配布と説明』	36.4%
『他院受診患者が紹介されて受診した場合の配布』	27.3%
『他院受診患者からの内容や利用についての問い合わせ対応』	27.3%
『新しくがんと診断された患者に医師が説明し、手渡す』	18.2%

の順となっている。

図 58. 「患者必携」の配布に当たって、各業務の可能性



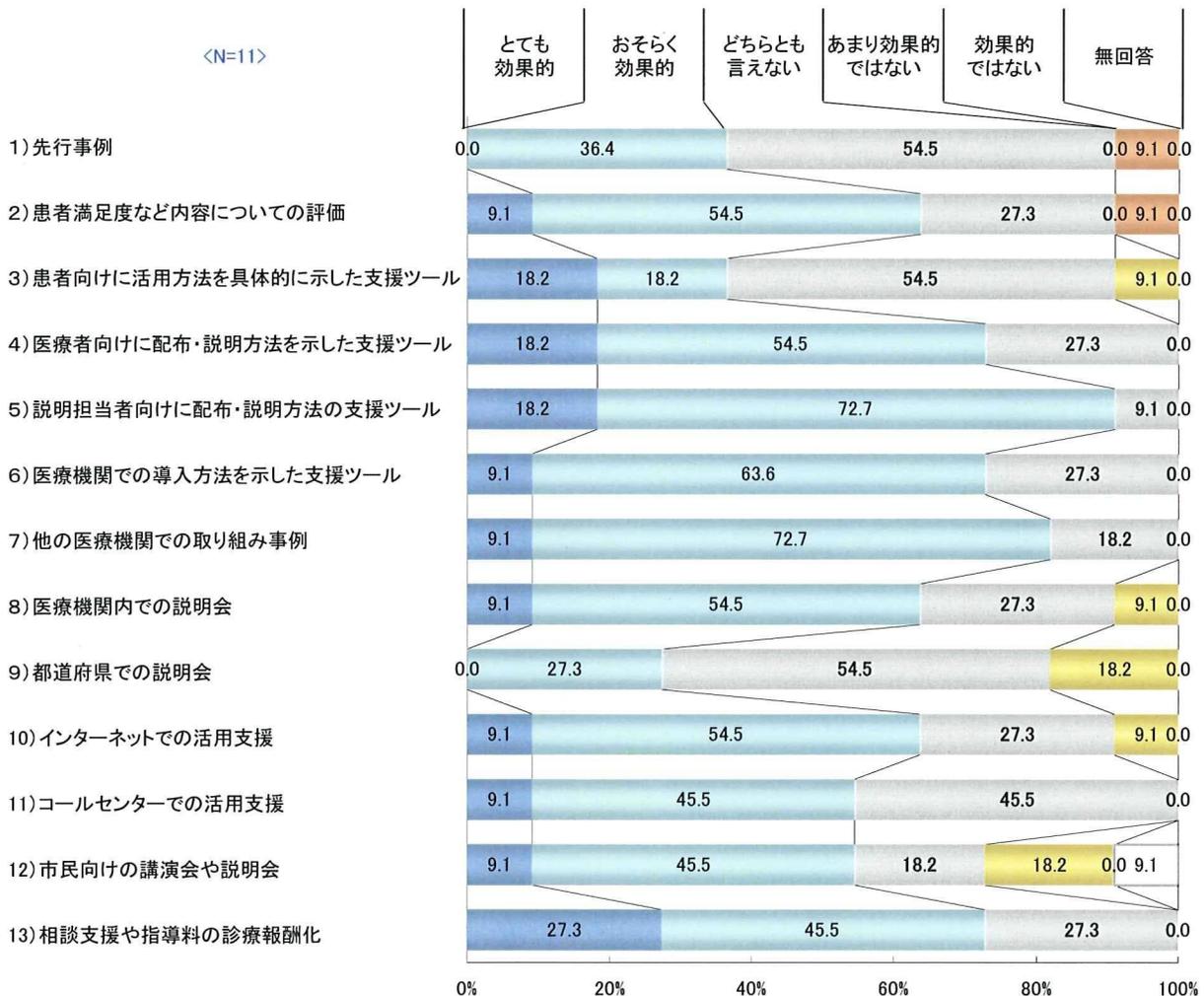
3. 今後、配布、活用を促すために検討している各取り組みに対する効果

「とても効果的」、「おそらく効果的」を合わせた割合は

『他の医療機関での取り組み事例』	-----81.8%	(「とても効果的」9.1%)
『説明担当者向けに配布、説明方法を示した支援ツール』	-----90.9%	(18.2%)
『医療者向けに配布、説明方法を示した支援ツール』	-----72.7%	(18.2%)
『医療機関での導入方法を示した支援ツール』	-----72.7%	(9.1%)
『相談支援や指導料の診療報酬化』	-----72.7%	(27.3%)
『患者満足度など、内容についての評価』	-----63.6%	(9.1%)
『医療機関内での説明会』	-----63.6%	(9.1%)
『インターネットでの活用支援』	-----63.6%	(9.1%)
『コールセンターでの活用支援』	-----54.5%	(9.1%)
『地域の患者会などを含む、市民向けの講演会や説明会』	-----54.5%	(9.1%)
『先行事例』	-----36.4%	(0.0%)
『患者向けに活用方法を具体的に示した支援ツール』	-----36.4%	(18.2%)
『都道府県での説明会』	-----27.3%	(0.0%)

の順に高くなっている。

図 59. 今後、配布、活用を促すために検討している各取り組みに対する効果



4. 配布の可能性、課題、配布・活用を促す取り組みの提案など、気づいた点（自由回答一覧）

- ・新たにがんと診断された人の中には、ガイドを十分に活用できない人も多くいると思う。そのため、要望者には全て配布し、その他の患者には医療者が必要と考える情報を抜き出して提供の方が良いと思われる。
- ・終末期相談支援料は何かと問題が多かったため、このガイドは“がん患者相談支援料”などとして、冊子にかかる費用を多少負担してもらい、恒久的にこのガイドががん患者に渡るような仕組みが必要と感じる。
- ・診察の時に手渡すことができれば良いと思うが、診察部に協力を得ることは困難だと思う。現在、相談室、病棟（2カ所）、外来やエレベータ前にパンフレットを設置しているが、管理が大変。各科外来に置いておけると良いが、在庫管理や補足説明などを考えると、課題が多いと思う。効果的に利用できればと思っている。
- ・相談支援センターや患者図書コーナーなどに置いたり、相談員や外来で、必要時に勧めたりはできるのではないと思う。
- ・配布をルーチンとした場合、医師から相談員への患者の動線をどうとれるか分からない。また、告知後に説明した場合、1日に何人いて、どのくらい時間をかけるのか不明のため、現状（相談員2人体制、MSW兼務）で対応できるか分からない。人員増員したくても、なかなか難しいので…。相談員は患者と濃く関わりたいと思うものの、新たな取り組みを導入、調整、実施、報告、事務処理などを考えると「できません」と手を挙げるのは難しい。
- ・「がんになったら手にとるガイド」は内容的には良いが、サイズが大きいことと、表題に「がん」と大きく入っていることから、待合室などの他の患者が多くいる場所では、設置したとしても該当する患者が手にとるか疑問である。
- ・医師から配布することは困難が予測される。外来などで関わる看護師向けに説明会を設け、活用に協力を依頼し、詳細については患者支援相談担当者へ連絡を受け、患者への関わり、サポートを継続する。そのほか、ポスターを掲示し啓蒙する。設置場所としては、化学療法センター、病棟、患者サロン、外来中待合い、図書室など。

5. 「患者必携」の情報が、がん患者・家族に届き、効果的に活用されるための提案・意見

(自由回答一覧)

- ・終末期相談支援料は何かと問題が多かったため、このガイドは“がん患者相談支援料”などとして、冊子にかかる費用を多少負担してもらい、恒久的にこのガイドががん患者に渡るような仕組みが必要と感じる。
- ・まず、医療者が冊子にどのような内容が載っているのか理解しておくことが必要だと思う。患者や家族が自分の身として考えなければいけないと思ったときでなければ、必要だと思わないので効果的な活用にはならないと思う。必要な時に利用できるようにすることが大切だと思う。医療者への説明、指導、病院としての取り組みを考えていくことが必要だと思う。
- ・「がんになったら手にとるガイド」はとてもよくできていると思う。ただ、勝手な心配だが、立派な冊子でお金もかかっている印象がある。無理をして無料で配布するよりも、数百円くらいで購入してもらおう形で、長期的に配布できたり、定期的に内容の更新ができるようにしていくと良いと思う。
- ・「がんになったら手にとるガイド」は、がん種別に作り、もう少し薄くすると持ち運びやすいと思う。がん患者を診る診療科の医師が、もっと視野を広げてくれると良いのと思うことがある。せめて、5大がんを診る医師に対して、治療法だけでなく、患者・家族を支えることについての研修がほしい。
- ・病棟・外来スタッフに啓蒙し、患者相談時に関わりながら活用されることが良いと思う。この冊子を中心にして、さらに相談員が患者と関われるきっかけになることを嬉しく思う。患者の手記は心に残った。冊子を読んだ時に、最初の支えになると感じた。巻末のところに用語の解説集があるが、もっといろいろ載せたらどうか。ウィルスや細菌など、そのような言葉も患者にとって難しいのでは？また、がん種別になっている方が見やすいと思う。

診療所・歯科診療所：

「患者必携」に対する評価

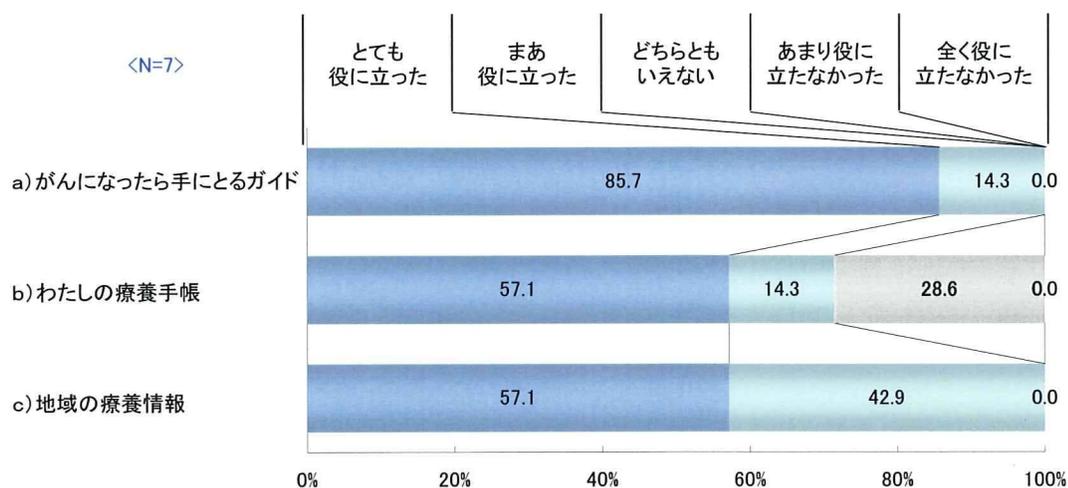
1. 「患者必携」は患者にとって役に立ったと思うか

「とても役に立った」、「まあ役に立った」を合わせた“役に立った”割合は

- a)『がんになったら手にとるガイド』----- 100.0%
- b)『わたしの療養手帳』-----71.4%
- c)『地域の療養情報』----- 100.0%

となっており、“役に立たなかった”と回答した人はいない。

図 60. 「患者必携」は役に立ったと思うか



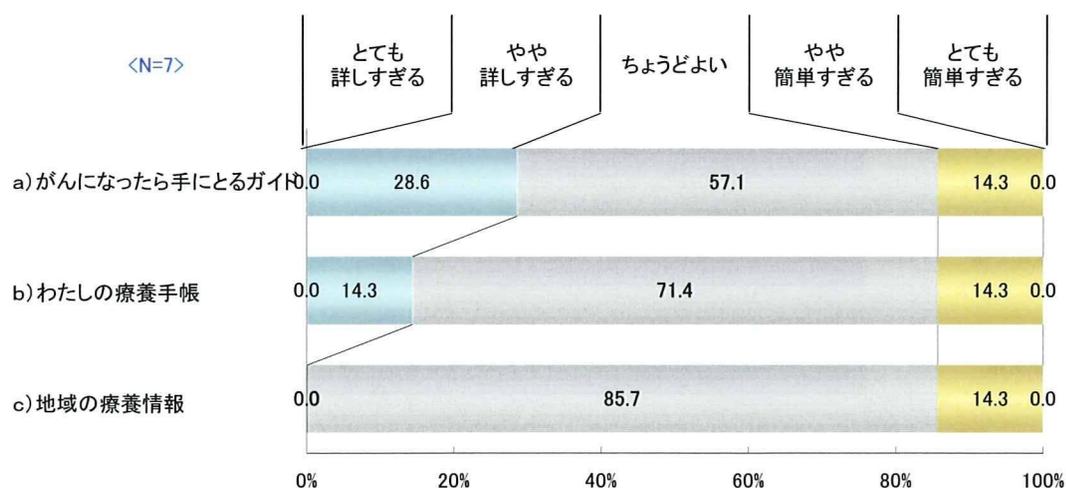
2. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか

書かれている内容に対する評価をみると、

	< 詳しすぎる >	< ちょうどよい >	< 簡単すぎる >
a) 『がんになったら手にとるガイド』	28.6%	57.1%	14.3%
b) 『わたしの療養手帳』	14.3%	71.4%	14.3%
c) 『地域の療養情報』	0.0%	85.7%	14.3%

となっており、いずれも「ちょうどよい」という評価が半数以上を占めている。

図 61. 「患者必携」の内容は詳しすぎるか、簡単すぎるか



3. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか

「とても役に立った」、「まあ役に立った」を合わせた“役に立った”割合は

- a)『がんになったら手にとるガイド』-----100.0%
- b)『わたしの療養手帳』-----85.7%
- c)『地域の療養情報』-----100.0%

となっており、いずれも高く評価され、“役に立たなかった”という回答はみられない。

図 62. 「患者必携」を患者が手にすることは医療者にとって役立つと思うか

